

※実務経験のある教員による授業科目

### 授業概要

子どもにとっての「音楽」は、ピアノに代表されるお稽古事でもなく、コンクールで勝つための道具でもなく、「遊び」そのものでなくてはなりません。豊かな遊びの経験が子どもの学びを深くします。指導者は、たくさん遊ばせてから気付きを促し、学びにつなげていきます。この方法は、決して幼児教育だけのものではなく、初等教育についても有効な考え方です。

この授業では、体育館等での「わらべうたあそび」と教室での音楽ワークを交互に行います。子どもの立場での体験と教員の立場からの視点を往還しながら、子どもにとってどのような経験になるのか、遊びが学びにどのようにつながるのか、音楽的能力がどのように育まれるのかを追究し、保育や音楽の授業へどのように生かすかを考えます。また、グループ活動により、子どもにどのように音楽に出会わせるかといった、実際の指導方法やプログラムづくりも扱います。講師の学校教員、東京都教育委員会指導主事の実務経験を生かし、新たな音楽教育指導者育成プログラムの追究を図ります。

### 授業計画

第 1 回	グループ編制 オリエンテーション
第 2 回	わらべうたあそび① 鬼きめ しぐさ
第 3 回	音楽ワーク① 拍とリズム 高い・低い ターとティティ
第 4 回	わらべうたあそび② 役交代 円隊形
第 5 回	音楽ワーク② ハンドサイン 音階 階名 音名
第 6 回	わらべうたあそび③ 隊列 減り増える
第 7 回	音楽ワーク③ 拍子 小節 線と間 五線
第 8 回	わらべうたあそび④ 鬼ごっこ じゃんけん
第 9 回	音楽ワーク④ フレーズ 構成
第 10 回	わらべうたあそび⑤ 門くぐり 指導演習①
第 11 回	音楽ワーク⑤ オスティナート 指導演習②
第 12 回	わらべうたあそび⑥ 交互唱 指導演習③
第 13 回	音楽ワーク⑥ カノン 指導演習④
第 14 回	わらべうたあそび⑦ ダンス 指導演習⑤
第 15 回	音楽ワーク⑦ 指導演習⑥
第 16 回	実技試験（わらべうた）

### 到達目標

- (1) ハンドサインをマスターし、移動ド読み（階名読み）、音名読みの両方ができるようになる。
- (2) 子どもの声の高さに合わせたわらべうたの範唱ができる。
- (3) 簡易譜（スティック・ノーテーション）、五線譜の読譜・記譜ができる。
- (4) 子どもの発達を踏まえたわらべうたあそびと音楽ワークの計画を立て実施できる。

### 履修上の注意

- ・最終的な目標は単純ですが、覚えること、身に付けることが数多くあります。そのため、休まないことが何より肝要です。
- ・心身の健康に留意し、マスクにより乾燥やウィルスから喉を守り、声を常によい状態に保ちましょう。

### 予習・復習

- ・Microsoft Teams への課題提示、チャンネルでのグループ作業、チャットへの課題の提出などがあります。また、わらべうたのレパートリーを覚え、維持するために、範唱音源を聴いて練習することが必要です。

### 評価方法

- ・わらべうたの歌唱 50% わらべうたワーク 20%、音楽ワーク 20%、授業への参加姿勢 10%

### テキスト

- ・プリント、電子資料（PDF データ）、音声データを適宜配布します。